

(3) ビューポイント・滞留拠点の整備

2(4)3) のとおり選定したビューポイント・滞留拠点の整備については、次のとおり検討を進めていく。

① 道の駅若桜「桜ん坊」(若桜町若桜)

【概要】

鉄道終着駅に隣接する全国的にも珍しい道の駅で、駅構内にあるSL車両を眺めることができる。売店は、地元産品の販売拠点となっており、自然豊かな地元の野菜・米に加え、ジビエ加工品やその他特産品が充実している。また、食堂では地元産のジビエを利用した料理が好評。新緑に紅葉、山遊び川遊びと通年を楽しめる若桜の拠点となっている。

開設日：平成20年6月1日

運営者：若桜町観光開発事業団(指定管理者制度)



【現状・課題】

- ・看板、幟旗、装飾等のデザインが洗練されていない。
- ・若桜駅や駅前とのアクセスが不便で、経済効果を十分に発揮しきれていない。



【整備等の方向性】

- ・若桜鉄道若桜駅前とのアクセスを改善し、周遊性創出による集客力の向上を図る。
- ・敷地内にコンビニを新設し、利便性の向上を図る。なお、建物は若桜材等を活用した特色あるデザインとし、屋外広告物についても、先進事例に倣い、景観に配慮された色調となるよう事業者と調整を図っていく。
- ・既存の屋外広告物についても景観に配慮したデザインでの改修等を検討する。
- ・無電柱化を検討する。
- ・SLを見ることができ、ジビエが食せるなどの見所や魅力を発信するとともに、SLや豊かな自然を満喫できるようベンチ等の設置を検討する。
- ・氷ノ山自然ふれあいの里の観光客等が行き帰りに立ち寄るよう同地と連動したPRを検討する。



事例 那須街道の看板(那須町)



事例 ローソン(京都市)

② 氷ノ山自然ふれあいの里（若桜町つく米）

【概要】

若桜町春米の氷ノ山山麓エリアは「わかさ氷ノ山自然ふれあいの里」と称され、雄大な自然をフィールドにした登山やトレッキングをはじめ、スキー場やキャンプ場、氷ノ山自然ふれあい館「響の森」などの施設があり、表情豊かな四季の景観とあわせて年間を通してレクリエーションを楽しむことができる。また「日本の棚田百選」にも選ばれた美しい「つくよね棚田」の景観を楽しむことができる。

<氷ノ山>

大山に次いで中国地方で二番目に高い山（標高1,510m）。氷ノ山後山那岐山国定公園の主峰を成し「母なる森」とも称されるブナの自然林や高山植物、天然記念物のイヌワシやヤマセミなど様々な動植物が生息している。



<つくよね棚田>

標高800mの場所に位置し、農地の少ない山地を切り開かれた棚田は、訪れる人々の心を和ませる風景となっている。戦国時代から江戸時代にかけて造られたもので、畦畔（けいはん）の多くは下流の谷から運び上げた雑石により一度崩壊すれば決して復元できないような見事な石積みが施されている。



【現状・課題】

- ・グリーンシーズンのゲレンデ活用が課題となっている。
- ・棚田の中に耕作放棄区画があり、景観の悪化が懸念されている。

【整備等の方向性】

- ・グリーンシーズンの新たな誘客素材として、ゲレンデを使ったEバイクやグラススキーの体験メニューを導入する。また、キャンプ場等の既存施設もブラッシュアップし、年間を通して宿泊を伴う観光客が訪れるよう魅力づくりに取り組む。
- ・民間団体等が行う誘客イベント等を支援する。
- ・棚田等のフォトスポットの検討と情報発信を行う。
- ・全国でもトップクラスの棚田の標高の高さを活かし、棚田で生産されたお米を地域のブランド米としてPRしていくことを検討する。
- ・棚田の景観を保全し観光振興に繋げていくため、棚田地域振興法に基づく国の指定棚田地域の指定や文化財保護法に基づく国の重要文化的景観の選定など農地保全や地域の振興に関する施策を検討する。



R3.4 現在、手前の木々が景観が遮られている。



③ 道の駅はっとう（八頭町徳丸）

【概要】

- ・情報発信センターである道の駅（国土交通省管轄）に、地元のフルーツ中心に野菜や加工品などの特産品等を取り扱っている直売所「八東フルーツ総合センター」（町営）が併設されている。店内には喫茶店もあり、地元や県内外の人で賑わっている。（年間3万人程度の入込客数）
- ・道の駅前面には田園風景が広がり、近くには、梨、リンゴ、ブドウ等を栽培するフルーツ観光園がある。また、若桜鉄道の列車を見ながら八東地域を代表する山「遠見山」を眺めることが出来る。
- ・道の駅から上方に階段を上ると八東総合運動公園が整備されており運動ができるほか、春には桜が咲くなど、散策にもおすすめのスポット。公園からは遠見山などの眺めがよい。

開設日：平成8年4月1日

運営者：八東地域振興（株）（指定管理者）



【現状・課題】

- ・公園からの眺めでは電線等がそこまで邪魔にならず、眺望がよい。
- ・道の駅から田園や遠見山側を観ると電柱や電線が目立つ。
- ・のぼり旗や看板、キャラクターのモニュメント等のデザインが洗練されていない。



【整備等の方向性】

- ・道路に面した部分について、おもてなしの印象を与え、前面の風景を楽しむことができる憩いの場所となるようベンチの設置等の整備を検討し、滞在時間の増加を図る。
- ・既存の屋外広告物について、自然になじむデザインにするため撤去・改修等を検討する。
- ・無電柱化を検討する。
- ・眺めのよい上部の八東総合運動公園への誘導策を検討する。

④ 徳丸親水公園（八頭町徳丸）

【概要】

千代川水系最大の支流一級河川八東川の徳丸地内にある河川公園（県所有、町管理）。公園内には駐車場・東屋が整備されている。若桜鉄道八東川第2橋梁と徳丸ドンドの両方を同時に見ることができるため、町内有数の写真撮影スポットとして知られる。

また、地元の人々の休憩場所や絵画教室のデッサン場所等として利用されている。

3月末から4月上旬にかけては桜が満開になり
4月中旬から下旬にかけては枝垂桜が見頃を迎える。



<徳丸ドンド>

- ・八東川の河川内にある弧を描くような自然滝。広い河原から近傍の山々も同時に眺めることができる。
- ・一面が亀の甲形の平石になっているところがあり、幅約72メートル、上下約1.6メートルの高さがある。
- ・川水が岩面一面を「ドンドン」と音を立てて滝のように流れることから、「徳丸ドンド」という名前がついたと言われている。

【現状・課題】

- ・近年の豪雨災害等により、亀甲型の平石部分に行く途中に土砂が堆積し、雑草が生い茂って容易にドンドに近づくことが出来ない状況になっている。
- ・ドンドを流れる水量はその年の気候や積雪等により左右されるが、近年減少傾向にある。
- ・若桜鉄道愛好家等にはよく知られるスポットであるが、広く一般に知られているわけではない。滞留拠点としてのポテンシャルを有しているが、周囲に経済効果を生む施設等はない。

【整備等の方向性】

- ・若桜鉄道と八頭町の自然を写真におさめるフォトスポットとして、若桜鉄道の愛好家や地域住民等の意見も聞きながら、公園施設や河川内除草等のあり方について検討する。
- ・若桜鉄道の通過時刻がスマートフォン等で確認できるような仕組みを検討する。



【徳丸親水公園で撮影した若桜鉄道の昭和号】

